



ウィザス

特集 それ、DVです。相談しませんか？



絵 H.M

<募集>通信ウィザスと一緒に作りませんか！

このセンター通信「ウィザス」は、男女共同参画社会の実現を推進するため、年4回(6月・9月・12月・3月)各4,500部を発行し、市内公共施設等に配架しています。
 現在、編集委員として活動いただける市民ボランティアを募集しています。原稿執筆、イラスト作成など興味のある方は是非一緒に、紙面を作りませんか。お気軽に、ご応募ください。
【対象】 次の①、②を満たす方
 ①男女共同参画について関心がある。
 ②月1回の編集会議に参加可能(第2水曜、10時から)
【応募】 センターまでお問合せください。(ホームページにも掲載しています。) スマートフォン専用



男女共同参画センター講座の予定

<p>12月</p> <p>12月14日(木)13:00～15:00 【女性向け起業セミナー】 女性で創業をめざすあなたに！創業計画を作成するその前に！ 講師 岩倉裕司氏(日本政策金融公庫神戸東支店) 先着 20人 一時保育有り</p>	<p>1月</p> <p>1月25日(木)10:00～13:00 【女性のためのチャレンジ相談】 再び仕事したい！起業するにはどんな準備がいるの？地域活動も。 相談員 萩原紫津子氏(キャリアコンサルタント) 1人50分・要予約 一時保育有り</p>
<p>2月</p> <p>平成30年2月10日(土) 【女性活躍フォーラム(仮題)】 午前中：フォーラム 12:00～15:00:1Dayチャレンジジョブ</p> <p>平成30年2月24日(土) 14:00～16:00 【健康講座 乳がん講座】 乳がんセルフチェック～乳がん検型をつかって～ 講師 門脇ひろみ氏(理学療法士) 一時保育有り 一時保育は1人300円です</p>	<p>毎月 【一時保育付き 大人の読書タイム】</p> <p>平成29年 12月18日(月) 19日(火) 平成30年 1月15日(月) 16日(火) 2月19日(月) 20日(火) 3月19日(月) 20日(火) 時間)午前10:00～12:00 定員)4人(超えた場合、抽選) 注)申込みは、各月1日から。</p> <p>講座のお問い合わせは男女共同参画センターまで 電話 0797-38-2023</p>

編集後記

DVは、当事者双方にとって人に知られたくないと言うのが本音でしょう。「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」この長たらしい名前の法律さえ知らない人がいます。相談は専門家が対応し、絶対にプライバシーは守られるので勇気をもって相談してほしい、というのがウィザス編集員の願いです。(岩崎)

ワーク・ライフ・バランス

非婚願望の発端？ 作 A.S



2014年 秋号 再掲

秘密厳守 女性相談 面接相談
 無料相談・予約専用電話 TEL 38-2022
 ご相談には、予約が必要(1人50分)
 内容 ①心の悩み相談 ②家事調停相談
 日 程 ①第1・2・4・5金曜日 午前10時～午後4時
 ②第1火曜日(午前10時～正午) 第3金曜日(午前11時～午後4時)
 ※一時保育(無料)＜要予約＞
 【法律相談】12月6日(水)・平成30年1月13日(土)・2月7日(水) 午後2時～4時(1人30分)《要予約》

ウィザス No. 91 ■平成29年12月発行(冬号)
 編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや
 〒659-0065 芦屋市公光町5-8(公光分庁舎・北館1階)
 TEL. 0797-38-2023 / FAX. 0797-38-2175
 Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp
 ■開館：月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分
 ■休館：日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)
 ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/centerwithus.html>

ウィザス ウォッチング

【男女格差を表すジェンダー・ギャップ指数、日本は2年連続後退し、114位】

世界経済フォーラム(WEF)は、11月2日、各国の男女格差の度合いを示すジェンダーギャップ指数(2017年版)を公表した。日本は、144カ国中114位。昨年の111位から更に後退し、過去最低の記録を更新、主要先進国(G7)では最下位の結果となった。
 この指数は、健康・教育・経済参画・政治参画の4分野、14の項目についての男女格差(平等さ)を測る。
 なぜ日本は、これほどまでに順位が低いのか？分野別順位は、次の表のとおり。

	健康	教育	経済参画	政治参画
2017年	1位	74位	114位	123位
2016年	40位	76位	118位	103位

前年から大きく順位を落とし、また全体の順位を下げる原因となったのは政治参画の分野だ。10月22日に行われた衆院選では、女性議員数は、定数のおよそ1割にあたる47人となった。国の人口の約半分は女性であるのに、国の施策を決める重要な場には、女性は1割しかいない。このような状態は今に始まったことではないが、この指数をもって、国際的に見ても「男女格差あり！」という負の称号を与えられる大きな要因となった。
 上位は北欧諸国が多く占め、これらの国は、女性が政治にしっかりと参画できている。また、同時に、男性が家事・育児へ共に取り組む社会の体制も整備されている。
 この指数は、物質的な豊かさ等ではなく、あくまで、男女の平等さを表す指数。それはある意味、相手を思いやる心の豊かさ、を表す一面も、あるのではないだろうか。